

序：Particles and Nuclei, The Playing Fields of Physics

「Nuclei, The Playing Fields of Physics」

1985 年に上記 title の Festschrift を出版しました. 学術誌「Hyperfine Interactions」の特集号 Hyperfine Interactions Vol. 21(1983) ; Scientific Publishing Company, Basel として出版されたものの別刷りとして装丁をも改め非売品として印刷したものです。

阪大・杉本グループによる鏡映核磁気能率の測定と、東大・山崎グループによる ^{210}Po アイソマー磁気因子の測定と、による核内中間子効果の実証という輝かしい研究成果を挙げ、両グループの連携が始まりました。その機会に杉本健三先生の還暦祝として出版したものでした。

この出版に際し Stanford 大学の Prof. S. Hanna が上記の title をつけて下さいました。

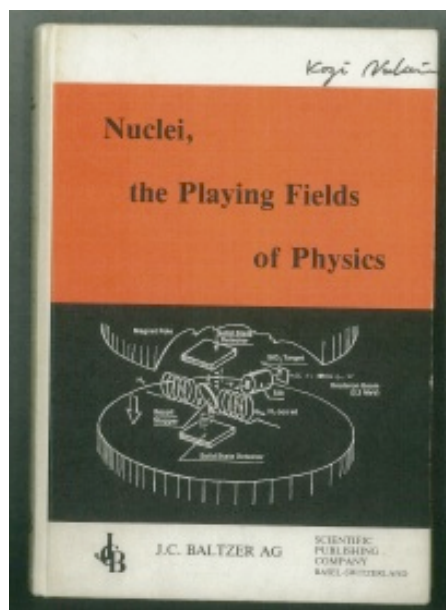
“The Playing Fields” というのは 英国 Eton 校の競技場を指す言葉で、英国の著名なリーダーを多く育てた立派な「教育の場」として称える意味があると教わりました。杉本・山崎グループが開拓した「研究の場」は日本の原子核研究に於ける “Playing Fields” の役割を果たしてきたと考えています。

杉本先生はこの本を大変お気に入り「Festschrift」と名づけられ、また 20 年 30 年後に第 2 版を作ろうと言って居られました。20 年後 30 年後の原子核研究の発展を期待してお気持ちでした。先生が 90 歳になられる年に、今度は卒寿のお祝いに出版したいと考え関係者に執筆をお願いするなど準備を進めていたところ、後数ヶ月で卒寿を迎えられるという 2012 年の秋に冥界に去られました。

今年は、その後の 30 年史を書こうと提案しましたところ、皆さんのご賛同を得ることができました。この 30 年の進歩は著しく、素粒子から物性物理学・化学・生物・医学など、原子核の隣接分野にも広がって展開した皆さんの活躍を振り返ると感動的な歴史です。



杉本先生





杉本記念シンポジウム

杉本先生は「追悼の会」とか「偲ぶ会」とか大層な騒ぎをすることはお嫌いで、告別式もご親族だけでなさいました。一方、先生は仲間や学生と酒を交わして話し合うことは大好きで、この文集「Festschrift」でも多くの人が先生との会話・歓談を懐かしんで居られます。

そこで、「Festschrift」編纂の途上で2013年4月6日～7日に記念シンポジウムを開催しました。会場は阪大理学部の大講義室で、60名を超える仲間や弟子が参加し、2日間、熱のこもった講演が続きました。

左ページの写真は参加者全員の集合写真です。第2次世界大戦の後、占領軍によって大阪湾に放棄された旧サイクロトロンに代わって再建されたわが国戦後初のサイクロトロンの記念碑です。屋外に移設されたマグネットを取り囲んで撮影しました。このサイクロトロンは菊池・朝永先生らのご努力による戦後の核物理学の復興を象徴するものです。背景の木々の間には杉本先生の設計・建設指揮によるヴァンデグラフ実験室の塔が見られます。

記念シンポジウムの講演者によるプレゼンテーションは、次のURLに収録しています。

<http://viva-ars.com/bunko/sugimoto/>

この会は「偲ぶ会」ではないと言って企画しましたが、結局、講演者の誰もが杉本先生の遺徳を偲ぶ気持ちのこもった話をして居られました。

「Festschrift」

「原子核研究30年史」を書き残そうと杉本・山崎・永宮さんらと話し合った時点の当初の狙いは、執筆者の皆さんのご協力によって達成できたと考えますが、同時に、全編に流れる論調には杉本先生の教育・研究に於ける姿勢と熱意を浮かび上がらせるものとなり、優れた「Festschrift」になったと思います。

「Festschrift」の編纂に当たっては、土岐博さん、谷畑勇夫さんのお二人に助言をいただき、渡邊康さん、関本美知子さんの献身的なご努力に支えられました。執筆者を含む関係者の皆様に深くお礼を申し上げます。

2013年7月

中井浩二